

【特別支援学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	令和3年度佐賀県立中原特別支援学校(本校)
1 前年度 評価結果の概要	○新学習指導要領を踏まえ、児童生徒一人一人に応じた指導・支援を行うことができた。次年度も新学習指導要領についての理解を深め指導の充実につなげていく。 ○特別支援教育における地域のリーダーとして、専門家と連携して課題解決に取り組むことができた。次年度もエリアリーダーや専門家と連携して、アドバイスや研修会の充実を図る。 ○キャリア教育や現場実習をとおして、児童生徒に将来について考えさせる授業に取り組むことができた。次年度も児童生徒の将来の自立と社会参加を目指し、保護者と連携を密にして指導・支援にあたっていく。
2 学校教育目標	一人一人に応じた指導・支援をとおして、児童生徒がもっている能力や可能性を最大限に伸ばし、明るくすこやかで豊かな心を持ち、自立し社会参加できる児童生徒の育成を目指す。
3 本年度の重点目標	①個の課題に迫った授業の充実及びその実現に向けた校内体制の充実 ②東部地区の特別支援教育のセンター的機能の充実と関係機関との関わりの充実 ③個に応じた進路指導の充実

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者	
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価			
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		学校関係者評価 評価 意見や提言
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○児童生徒の適切な実態把握に基づき、内容を設定し、学力向上につながる授業が実践できたとする職員が80%以上 ○子供が見通しを立てて学習に取り組む、内容を身に付けていると回答する保護者が80%以上	・個別の指導計画の作成を通し、児童生徒の実態把握を基にした個に応じた指導・支援を行う。 ・個別の指導計画「7 各教科等の指導内容、評価等」を他の様式への連動させるため書式の改善を図り、実効的な指導・支援を行う。						教務部口
	○新学習指導要領に示されている各教科等の目標や内容を踏まえた授業実践	○新学習指導要領に示されている各教科等の目標や内容を踏まえた授業実践ができたと回答する教職員が80%以上 ○学校で学んだことが身に付いたと回答する保護者が70%以上	・新学習指導要領に示されている各教科等の目標や内容を意識できる指導略案を活用した授業づくりと授業実践をする。 ・全学級で授業報告会や事例検討会を実施する。 ・指導略案の様式を工夫するなどして、目標設定の仕方や学習評価の工夫について、各学級の課題の改善に向け重点的に取り組む。						研究部口
	◎児童生徒が夢や希望を持ち、将来の自立と社会参加に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○進路研修や現場実習の取り組みを通して、進路指導や職業教育に対する意識や知識が向上したと回答する職員が80%以上 ○「児童生徒の希望や状況等に応じたキャリア教育及び職業教育ができています」と回答する保護者が80%以上	・本人・保護者の希望やニーズを把握した研修や進路先見学、現場実習の実施する。 ・「卒業後の生活」を考えるために必要な情報を提供する。						進路指導部口
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童生徒会活動や日常の学習活動において「思いやりや豊かな心」を育む趣旨に基づいた指導・支援をした教員70%以上 ○「思いやりや豊かな心」を育むために学校行事が役に立っていると回答する保護者が70%以上	・小中高の全課程の児童生徒に平等、共同、尊重の心を育む児童生徒会活動(体育祭、ナーミー活動等)を実施する。 ・人権・同和教育校内研修会を実施する。						生活指導部口
	●「いじめ」の早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめ」防止について、職員の共通理解の下、組織的な対応ができていると回答する教員70%以上 ○学校からの日常的な連絡や面談、アンケートが「いじめ」の早期発見、防止に役立っていると回答する保護者が70%以上	・「いじめ」に関する学校基本方針確認の職員研修を実施する。 ・職員アンケート月1回、保護者アンケート学期1回を実施する。						生活指導部口
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上 ○研修や講話によって、食育への知識と意識が高まったと回答する職員が80%以上 ○学校からの情報が、家庭での食育に役立ったとする保護者が80%以上	・可能な範囲内で職員研修、給食試食会、食育講話等を実施する。 ・食育だよりを発行する。						保健体育部口
	○感染症の予防、感染拡大防止	○本校の感染症対策基本方針を守っていると回答する職員が100% ○学校の感染症対策は、適切であると回答する保護者が80%以上	・本校の感染症対策基本方針を周知徹底する。 ・予防及び指導の徹底を図る。 ①マスクの着用②手洗い③手指及び共同使用物品の消毒④定期的な換気 ・感染者が発生した場合には、改善点を検討する。						保健体育部口
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○本校は地域の特別支援教育のセンター校の役割を十分に果たしていると回答する職員が80%以上	・巡回相談の内容や支援状況について巡回相談員で情報共有や打ち合わせを密にし、検討を重ね他関係機関と連携する。 ・地域支援組織表を作成し、各部会や職員会議でそれぞれの役割を周知し、年度末に評価を行う。 ・研修会後のアンケートで研修会や巡回相談についての地域のニーズを把握し、分析活用する。						教育支援部口
	○交流学習の充実	○学校行事や地域のコミュニティとの交流を通して相互の理解が深まったと考える保護者、職員が80%以上	・交流発表会、ナーミー活動、防災キャンプ等の学校行事を地域のコミュニティや関係機関と協力して計画実行する。						学習部 総務・広報部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。(遵守できたと回答する職員が80%以上)	・毎週金曜日に「1/会議デー」定時退勤推進日を設定する。 ・年間5回「完全定時退勤日」を設定する。 ・時間外在校等時間が月45時間を超える職員については管理職による面接を実施する。						管理職口
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		学校関係者評価 評価 意見や提言
○ICT活用教育	○新型コロナウイルス感染症対策を含めた、ICT機器を使った効果的な授業や支援の実施 ○ICT活用について保護者への情報提供	○新型コロナウイルス感染症対策を含めた、ICT機器を使った効果的な授業や支援ができたと回答が70%以上 ○ICT機器を使った効果的な授業や支援が実施されているとの保護者回答が70%以上	・全職員が年2回以上は校内外ICT活用教育に関する研修会に参加し、知識・技能の向上を図る。 ・新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、オンライン授業を実施する。 ・保護者に向けての通信を年4回発行する。						情報教育部口
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育									
5 総合評価・次年度への展望									